會　報

第　2　号

滋賀県老人大学校同窓會

會報

第二号

滋賀県老人大学校同窓会

(昭和58年3月24日発行)

会報　第二号

目次

一、あいさつ……第二号発行にあたって……会長……大橋儀平……1

一、会報第二号発刊を祝して……学校長……武村正義……2

一、沿革……3

一、会計（決算・予算）……4

一、会員の近況

第一部　社会活動に向って

老大卒業その後……彦根市……近藤辰次郎……6

松茸山施業改善事業……野洲町……内堀善二……7

自然環境……大津市……菴原忠男……8

老人クラブの一員として……大津市……千田トシ……9

婦人活動……高島町……三矢博子……10

老大卒業後の生活……彦根市……川村繁乃……11

第二部　学科のグループ

陶芸学科の近況……二期……中村義朗……13

その後の歩み …… 二期 宇野よしゑ 14
陶味会の近況 …… 三期 佐生正二 15
生活科学科便り …… 三期 田中 花 16
老大「真夏の祭典」 …… 三期 増田三郎 18
第三部 個人の動き
園芸学科 …… 20
陶芸学科 …… 28
福祉学科 …… 40
生活科学科 …… 42
一、地域便り
近江八幡市の〃比牟礼同窓会〃について …… 二期 中嶋 実 46
一、会 則 …… 49
一、会員名簿 …… 50
一、老大便り …… 58
（あとがき）

〔表紙絵・前県教委学校教育課参事 川原林徳一先生〕

ごあいさつ

会長　**大橋儀平**

例年にない暖冬の中、会員各位には、老大卒業の意義をかみしめ、ますますご健勝にそれぞれの道にご精励のことと存じます。

思いおこせば、第一期生中の最高令者であった私が、周囲の皆様が寄せてくださったご親切のおかげで、八十七才という心身状態にめげず、何の苦もなく元気一杯通学させていただけた二年間は、青少年期には思えなかった感謝と嬉しさの連続でした。

この在学時の有難さに続いて、卒業間もなく発足した栄えある滋賀県老人大学校同窓会の、初代会長にご推挙いただいたことは、この上なき光栄でありますとともに、その任の重さを痛感いたしました。幸いにも、会員各位のご理解あるご支援をいただきましたお蔭をもって、事業面では、総会も第三回を迎え、三月二十四日には、第一・二・三期卒会員が、地域における活動情報を交換する〃発表総会〃を開催する運びにまで到達しました。会員皆様の積極的なご協力に心から謝意を表する次第です。

また会報も、第二集発刊の運びとなり、会員の公私にわたる活動ぶり、卒業一・二・三期生グループの連帯活動の実態を報告し合うことによって、同窓会のこれからの社会的活動のあり方を探ることになったことも、老大卒業の使命感のあらわれと強く感動いたしております。

会長在任二ケ年は、いつの間にか過ぎたように思いましたが、会発足以来の総会・会報をふり返りまして、これでよかったという充実感を味わっています。これも全く会員各位が、高齢、枯木の私に花を咲かさせてやろうと支えてくださったおかげであると感謝いたします。

あとになりましたが、本会報のために学校長武村正義知事殿から、メッセージを頂戴し、ご激励賜わりましたことを衷心お礼申しあげ、母校のますますのご発展を祈念いたします。会員各位のご協力に感謝し、会の発展を祈ってごあいさつにいたします。

会報第二号を祝して

滋賀県老人大学校同窓会が順調に発展し、このたび第二号の同窓会報が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

高齢者への学習機会の提供と生きがいある老後生活の確保を目的として開設いたしました滋賀県老人大学校も、開校以来早や四年余りの歳月が過ぎました。その間、皆さん方の在学中における熱意ある学習や同窓会活動によるよき校風づくりのとりくみと、卒業後の地域社会における指導者としてのご活躍によって、しっかりした目標をもって豊かに生きることの大切さを地域に根づかせ、老人大学校の基礎を豊かにしていただくことができました。

皆さん方が本校で学ばれた2年間の成果を複雑、多様化の一途をたどる今日の社会の中で、住みよい地域社会を目ざして同窓会活動を続けられる上で、今まで以上に積極的に生かしていただくことを期待しております。

今後とも本校の発展のため、御協力をお願いしますとともに、同窓会活動の一層の発展を心から期待しております。

昭和五十八年三月

滋賀県老人大学校長（滋賀県知事）

武村正義

同窓会沿革

年・月・日	摘要
S55・9・22	○滋賀県老人大学校同窓会の設立総会を、草津市社会福祉センターにおいて、第一期卒業式終了後に開催。 会則案の審議と承認。 役員選出
12・1	○同窓会役員会開催 会則第五条（事業）の具体化について協議 第一回総会日程決定（S56・3・25）
S56・2・21	○理事会開催 総会日程の決定 予算案の審議と作成（別表） 会報形式の決定と執筆要領の決定
3・25	○第一回総会開催（草津） 会務報告 予算案の審議と承認 当日の老大公開講座に出席し研修する。

年・月・日	摘要
S57・2・1	○役員会
2・19	○会計監査
3・8	○第二回総会開催（草津） 会務報告 予算・決算の承認 当日の老大公開講座に出席し研修 総会後懇親会 於あたか飯店
12・14	○役員会
S58・3・17	○会計監査
	○役員会 総会日程の確認 会計決算・予算の審議と作成 昭和五十八年度役員選出
3・24	○第三回総会開催（大津） 午前中 発表会・議事 午後 懇親会

昭和57年度　会計収支決算

収　入

区　分	予算額	決算額	差引増減額	摘　要
会費	145,000	236,000	91,000	S 56年度 1,000×211　S57年度 1,000×25
寄附金	20,000	5,000	△15,000	広告料1件
繰越金	20,797	20,797		
利息	200	2,687	2,487	
雑収入		10,000	10,000	
合計	185,997	274,484	88,487	

支　出

区　分	予算額	決算額	差引増減額	摘　要
報償費	5,000	10,000	△ 5,000	事務職員餞別
旅費	3,000		3,000	
需用費	120,000	150,000	△30,000	会報　500円×300
役務費	22,000	69,570	△47,570	通信・送料
会議費	4,000	3,400	600	
研修活動費	20,000		20,000	需要費へ
交際費	2,000		2,000	
賃借料	2,100	5,430	△ 3,330	理事会場料
雑費	4,000		4,000	
予備費	3,897		3,897	
合計	185,997	238,400	△52,403	

差引残高　274,484円－238,400円＝36,084円　　次年度繰越　36,084円

収支決算書および諸帳簿・証憑書類と対照精査した結果、いずれも正確に処理され適正であることを認める。

昭和58年3月17日

監事　周防安次 ㊞
〃　菅原とみ ㊞

昭和58年度　会計予算

収　入

区　分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘　要
会費	201,000	145,000	56,000	1,000円×201人
寄附金		20,000	△20,000	
繰越金	36,084	20,797	15,287	
利息	1,916	200	1,716	
雑収入	30,000		30,000	広告料等
合計	269,000	185,997	83,003	

支　出

区　分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘　要
報償費	10,000	5,000	5,000	謝　金
旅費	3,000	3,000		
需用費	80,000	120,000	△40,000	会報 300部　消耗品
役務費	25,000	22,000	3,000	通信料・事務手数料
会議費	4,000	4,000		湯茶代等
総会費	110,000	20,000	90,000	総会弁当代・材料代
交際費	2,000	2,000		渉外費
賃借料	5,000	2,100	2,900	会場借料
雑費	4,000	4,000		
積立金	10,000		10,000	特別会計
予備費	16,000	3,897	12,103	
合計	269,000	185,997	83,003	

會員の近況

第一部　社会活動に向って

老大卒業その後

二期生
彦根市　近藤　辰次郎

老大卒業後早や一ケ年以上も過ぎ去ってしまった。

在学当時より、卒業後は地域社会において、奉仕活動に努める事に生甲斐を感じ、愛される老人として老人会の育成指導に努め、再度生れ難き人間界において、最後に残るものは名のみである事を痛感し、善根を施し悔のない充実した日々を送る事を念願としていた。幸いにも健康に恵まれ彦根市老ク連合会理事、城西学区老人連合会長、自町内単位老人クラブ会長として、本部との連携を密にし老人会員の育成指導に微力を尽している。

彦根市老ク連主催による趣味部書道・民謡・詩吟部会員として毎月各部共二回出席し何れもリーダーとして奉仕に努め会員相互の親睦を計り生甲斐を感じている。単位老人クラブは毎月一回お誕生会と称して町内会館に誕生月該当者、役員の出席を求め、誕生お祝を贈呈し、茶話会にて懇親を深かめ会員の発言を求め、「レクリェション」として頭の体操、クイズその他を行い民謡・歌謡曲等の会唱、和やかな雰囲気にて一時を過ごす。

年二回の総会・歩こう会（歴史探訪）の実施・講演会・追悼会、日帰り旅行一泊旅行等を実施しているが詳細については紙面の都合上割愛する。昨年九月県老ク連主催による、老人の主張コンクール「老人の健康つくりと病にかからぬ運動」に応募し、処計らずも拙文が第一位に入選、県老人大会席上において朗読の光栄に浴した。同文を彦根市老ク連会報に掲載された処、その内容を読み、隣接老人クラブ会長より講演にと招請を受け、その器にあらずと辞退したが是非にとの事にて引受け、健康づくりについて自己の経験を生かすとともに老大在学中受講した講演要点を引用して、好評を博し得ました。これは二ケ年間老大文芸科にて名講師に受講した賜物と深く感謝するとともに今後も機会があれば講師として奉仕する覚悟である。

最近全国津々浦々に至るまで「ゲートボール熱は燎

原の火の如く拡がりつゝあり、当学区においても日に増し愛好者は増加し五十名を数える事となり、市街地には適当なコートがなく困窮していた処、当地区内紡績会社のテニスコートを借用する事になり、二面のゲートボール専用コートを作製し好天日には二面共フルに使用して練習試合を行い、健康の増進と親睦を兼ね和気藹々裡に過している。常に審判を受持っている関係上、昨年十二月三日能登川町老人福祉センター、繖寿苑において、日本ゲートボール協会主催による公認審判員（三級）養成講習会並びに認定試験が実施されたので受験した処、幸にも認定通知を得たので今後は自信を以って益々ゲートボールの育成指導と奉仕活動に努力致す考えであります。

松茸山施業改善事業地区の指定をうけて

老人クラブの事業

二期生

野洲町　内堀　善二

我が郷土が誇る三上山は、近江富士としてその姿が美しいばかりでなく、俵藤太秀郷のムカデ退治として歴史とロマンの山でもあります。この三上山で次第に忘れられようとしているものに秋の味覚王マツタケがあります。

古い話ですが、大正の終わり頃より昭和の初め頃、秋のお山に入れば足が松茸に当る程沢山穫れました。この松茸がまた香り高く一段と風味があり、京阪神よりタケ狩に沢山の来客があり、終日賑やかな声が山にこだましたものでした。近年この松茸も山麓に住みながら、全く口にすることも香りをかぐことも出来なくなりました。

いろいろ原因はあると言われますが、赤松が老令化したこと、生活文化の改変で石油やプロパンが出始め、割木や柴、落葉の燃料がいらなくなったことで、松茸菌が退化し顔を出さなくなったといわれます。今では海の幸カズノコや松葉カニと共に松茸もわれわれ庶民には高嶺の花で、一本一万円もする程縁が遠くなりました。

この松茸!! 再び三上山の秋の王者として甦えらせようとしているのが松茸山施業改善事業です。この事業を老人の生きがい事業として県は十ケ所をモデル地区として選定されました。三上地区も指定を受け松茸の苗代造りに老人クラブの皆さんにお願いし、再び三上山で穫れた松茸の香を京阪神に広げたいのです。三上小学校の近く本命寺山上の樹令二十五年程度になる青年樹林を松茸専門官が指示され、戦後からの下柴や堆積した落葉を取除き清掃し、松の根に祈りを込めながら松茸菌のシロを作ることに七、八年は待たなければ……と言う気の長い話しですが、丹波の試験地では実験に成功したそうです。しかし松茸は山の風土と気候が大事で、特に九月の気温C十八度以下で雷が鳴らなければ顔を出してくれるとの事です。

古い歴史と伝統に育くまれて来た三上の住民は、お山を神とあがめて朝な夕なに感謝の祈りを込め、田用水が不足すれば山頂の竜王様に水を持ってお参りしたのが雨乞いの始まりであります。また、夢枕に鋤簾「じょれん」姿の竜王様を拝んだことから、鈴河川原を掘り永源を求め早ぱつから区民を救ったといわれ、これが「井の掘」の初めといわれています。この竜王様の水が静かに山麓に降りて松茸菌を呼び起し、三上山の香り高き松茸と言われるようにしたいものです。

しかし松茸の顔と対面出来る頃には私達熟年生には縁がないかもしれません。秋といえば御上神社のズイキ祭と食膳のマツタケ、この松茸の夢を追い続けて駄馬にムチ打って老人クラブの事業として勉めたいと思います。諺に「播かぬ種は生えぬ」といわれます。良い菌根のシロのできる昔の三上山の松茸山に甦えらせたいのが夢であり、この夢が正夢としてどこの家庭でも松茸が食膳にのるよう、種まきすることが老人の生きがいであります。

自然環境

二期生 大津市 菴原 忠男

私は、公害監視員として、二期目の社会参加である。老大での修得を如何にして社会還元出来るか、未知

数であっても、勉学と健康に随分役立っている事は確である。

生活科学科というと、女性専科の感が深いが、科学文明の発達した現代社会に男性も無頓着では居られない世代であると思う。今日の環境問題は女性のみの分野ではなく男性にも重要課題である。大気の汚染・水質の汚濁・土壌の汚染等、我が国のみの問題に留らず地球全体に生じている人類全体の問題である。

本県も琵琶湖富栄養化防止条例を制定して、水質汚濁防止対策に万全を期して居られるが、一度汚濁された琵琶湖は、清浄な水質にする為には幾多の困難を伴ない、不可能に近い特殊性がある。それは、淡水湖として稀有に見る還流をしているからである。

水も空気も土も、地球上に生存する人類及び動植物・微生物等、太陽の熱エネルギーに依って種々変化し、相互扶助的に相互の生命体の保全が出来ているのである。

水の生態を見る事にしよう。水分子(H_2O)は、水素原子(H)二個と、酸素原子(O)一個で、原子とか核は電帯を持ち、水素原子の電極正に酸素原子は負に電荷して水素結合する。即ち水である。

水は土に浸透する時、窒素・炭素・塩素・ナトリュム共、水和するし、土の微粒子共吸着するが、これらは、正負の電極に依って水和する科学反応である。

大気汚染は、工場の煙突から排出される燃焼産物と、ガソリンを燃料とする自動車の排ガスである。

一酸化炭素(CO)一酸化窒素(NO)を排出し、NOは、空気中で酸化されて、二酸化窒素(NO_2)に変化し、更に、炭化水素と光科学反応を起して大気汚染として、生物の生命をむしばむのである。

家庭雑排とか、し尿等は土に施せば微生物の餌となり、科学反応を起して自然浄化するが、現在社会構造の変革で公害現象として悩ましている。我々は自然の摂理を理解し大切にして公害をなくしたいと思う。

老人クラブの一員として

二期生

大津市　千田　トシ

老いては一日一日を充実させたいと思いながらも、今日まで無為に過して参りました。老大で修得した数々を、地域に還元と望んではおりますものの、現実はなかなか難しく、自己の未熟さを痛感しております。

百才の長寿女性が自殺されたと、一家眷族に囲まれて幸せな日々と思われたのに、その原因は淋しさの為ということです。或人はこれを孤老の心と云われています。こうした心細さから脱れて、楽しい日々でありたいと思います。

当地区の老人クラブでは、月一回例会を持ち、親睦と和合を図り、健やかに生きることを目標としています。街路清掃に参加し、健康増進に歩こう会やゲートボールを、俳句に頭の体操を、又廃品回収し、時には講演を聞き、映画を見、年二回旅行し、会員の病気見舞、記念行事には宴席を設け、老人同志談話し、考え、歌い、笑い、喜び合う等、運営を計っております。微力ながらこうしたクラブ活動の一端を荷っております。

今後も何とかぼけないで、生き甲斐のある余生を楽しく美しく老いたいと願う毎日です。

・掃き了えて箒立てかく片時雨
・雪吊りの松奏づるや園に佇つ
・足袋白く黒衣の尼僧そそと行く
・樏を履いて配るや年賀状
・焚火借り老の冷たき手を翳す
・祝膳一つ増えたり大旦

婦人活動

二期生　高島町　三矢　博子

同窓の皆様　お元気ですか。

先日米原へ東海道線で行きました折、近江八幡駅が大変懐しいでした。湖西の高島より二年間通い、途中の駅順も覚えておりましたが今では忘れているのもありました。

吹雪く早朝によくもまあ行ったものだと我ながら感心しております。

在学中の様々な事が、今次々と思い出されます。普通では仲々お聴き出来ないお偉い先生方の講話を熱心

に聞き、或る時は実技に時間のたつのも忘れてやったこと等、本当に有意義な老後の一こまでした。

更に県内の各地の人達とお友達になれ、卒業後も年に二、三回はお出会いする機会を作って戴き、今度お会い出来るのは何時だろうと、その日を楽しみに健康に留意いたしております。

老大で学びました事は、わが町へ還元すべく心がけておりますが、さてとなると仲々お役にたちません。私はお蔭様で社会教育指導員（非常勤）という肩書きを戴き、主として婦人の方々の学習や活動のお手伝いをしております。

婦人の数は全人口の半数を占めておりますので「明るい町」づくりにも婦人が大いに発憤せねばならぬのですが、どうも奉仕的精神に乏しく、悪く言えば自分の身に直接得にならないものは成る可くさけようとする傾向が見受けられ、婦人会に於いても役員になるのが嫌さで、脱退する婦人が未だに多数あるようです。これでは男女平等とか婦人が強くなったとか言えるでしょうか。どうもわからないことばかりです。こんな事ばかり言っているとお叱りを受けますが…。私は少しでも長く自分の面倒は自分でみられるよう、私に合った体力づくりに励んでおります。

皆様ぼけないように努力しましょう。

老大卒業後の生活

二期生　彦根市　川村　繁乃

其の後も彦根老ク連の福寿大学に入り受講して老化防止に努力している。お話の中で、老後は不在である。命有る限り体力に応じて頑張る事、物の豊かさから生れる浪費が多い。戦前戦後厳しい社会の中で耐乏生活をして来た私達は今が出番である。家庭でのけち人間になる事、物志向はせず、スーパーやデパートは自分の倉庫で有ると思えばいつでも手に入る。老人の豊かな姿は理屈を言わず不言実行する。メモの中からかいつまみました。豊かな社会の中で、さらに生甲斐を求めて、老ク連の趣味クラブにも入会して詩吟、民謡など声張り上げて歌う事も健康保持と共に人との交り

を深かめ親睦をはかる意味にも楽しく参加している。
町内の老ク の会計、婦人部のお世話の受持ち、第二日曜日は月例会をして限られた費用の中から食事を共にしながら、お話歌など披露し、童心に返り遊びをするなどわきあいあいと過す事を何よりの楽しみとして、皆さん其の日の来るのを待ちこがれていらっしゃいます。
町内の草かりとかボランティもしている。心身共に健康である事が真の幸福であろうかと思うのである。感謝しつゝ一日を反省して手を合わす事を習慣としている現在である。

第二部　学科のグループ

第二期陶芸学科の近況

草津市　中村　義朗

陶芸学科を卒業して早や一年半、引続き碧水陶芸の会に席を置いている人十一名。

一、「お早ようございます」「お早よう」、元気な声が次々と教室に漲り、明るい笑顔があちこちにほころぶ。皆眼が活き活きと輝き楽しさを隠しきれない様子である。それは何故だろうか、陶芸の楽しさもあること乍ら一ケ月振りに友達と会い互に健康を確かめ合い、再会を喜ぶ友情の発露でなくて何であろう。斬様にして吾々は喜びに満ち溢れる陶芸の日を毎月待侘るのである。

二、陶芸は楽しい。わいわいがやがや、冗談を言い乍らも手は忙しく動いている。最近は腕も上り皆高い技術に挑戦し、高級品が出来上ってゆく。本当に眼を見張る様な作品もある。

土もろくにこねることが出来なかった一年生の時から見れば三年半の歳月は決して無駄ではなかった。陶芸は始めれば止められぬ魅力を持っている。そうしてこの魅力にとりつかれて、せっせと指先を動かす。この小さな指先の運動が老人ぼけを予防し、頭の回転を良くし、ひいては若返りにつながる。三年半前より仲間は若返った。若返らなくても年を取った様子は見られない。又趣味に生き趣味に情熱を燃せることは幸福な事だ。

三、二月の本焼窯当番は一番つらい。風の強い日は煙突から風が逆流して窯はうなる様な音を立て温度計の差込んである隙間より黒煙を吐出す。温度は千度以上になると上昇しにくい。酸素補給の為送風器により送っている風量を限度一杯増やしても煙突から逆流して来る強風の為に負けてしまう。従って燃料は不完全燃焼になりカロリーは上らない。もともと窯炊きは燃料と風量により温度を上げ最終は千二百度以上にするわけで定められた温度上昇表のカーブに従って燃料、風量を調節する。点火後三時間は至ってのんびりして居られるが、三時間以降は温度を急上昇させる為五分刻みに燃料、風量を調節しなければ図に示されているカ

ーブの通りに温度は上昇しない。非常に微妙なもので相当経験を積んだ人でも神経をすり減らす程である。此の数時間が焼成の良否を左右する重大な時であるだけに全くの真剣勝負である。この様な大事な時強風に吹かれてはたまったものではない。千百度より温度計は少しも動かない。全く神に祈る心境である。三時前よりやや風が弱まりやっと温度上昇の気色になった。やれやれ今日の窯当番も無事終った。翌朝窯出しをして素晴らしい出来ばえに皆喜んでくれた。陶芸は窯を出す迄は分らない。だから余計取りつかれるのだ。

四、昨年八月長浜で早川一光先生の公開講座の後敦賀に前進しトンネル温泉にて一泊、翌日三方五湖舟遊、レインボーラインドライブと一泊旅行を楽しんだ。

　本年一月五日新年会を碧水荘で挙行、和気藹々の数時間であった。斬様にして吾々二期生陶芸学科の連中は卒業後の団結も固く、友情の絆は更に深く、一日一日を意義あらしめ、不老長寿の山を求めて前進しております。

その後の歩み

二期生　近江八幡市　宇野　よしゑ

今後の研鑚、交友に、胸ふくらませ卒業した私達生活科学科は直ちに十月早々「こまど」クラス会を持った。「こまど」これは私達在学中の研究便りの題名でもある。

たとえ小さな窓でも開けば、美しい大空も、流れゆく雲も、山河も果てしなく一望に眺められ心は自然に清しく吸い込まれてゆく。各自が心の窓を開き大切な友として手をとり合い進んでゆくのが私達のモットーである。

湖西今津で、栗御飯に舌つづみうちつつ在学時の思い出や反省、今後の在り方を楽しく話しあった。折角高年令に達して得た何物にも変え難い友と疎遠にならぬ様会合の機会を約した。五十七年の新年会を大津でもち抱負と決意を固めあった。五月は八幡三長氏僧坊で、十月は長浜宿泊　二日間の名所旧蹟めぐり。湖北の歴史学習へと。こうした会合で更に交友を深めつ

つ地域の実状を発表しあい、語らいの輪を拡げ、楽しい意義ある会へと進展して行く事が出来た。幸い事務局の膝元には菴原さん、湖北には宮崎さんの両雄が頑張って下さるのが何よりも力強い極みである。静かに太陽は昇り新卒業以来二度目の新年を迎えた。

しい年の讃歌が響いてきます。

七十路の越え来し道の険しくも
立ちかえる春に未だ夢あり

高令になってもせめて「明るい」色のフィルターを通してながめてみよう。何もかも明かるく見えるに違いない。人間というものは妙なもので心の持ち方一つでいかようにも変わって来る。人間の心はまさに伸縮自在。お互いに積極的に伸び伸び躍動させて、物事に又人生に向っていこう。沈む日を空によび戻せないと同じに「若さ」を取り戻す事は出来ない。だが太陽は中天高くある時よりも、沈む時こそ茜に染めひときわ輝きを増すものである。

〝まだまだ何かやれるぞ〟そこに大きな希望と勇気が湧いて来る。老ゆるともみずみずしい感性豊かな輝く日々にしていこう。県老大同窓会組織の下に各々の立場で出来得る限り頑張ろう楽しい限りである。

陶味会の近況

三期生

五個荘町　佐生　正二

九月二十九日晴れの卒業式の後恩師大西忠左先生が名付親になって頂いた陶味会、名前だけではなく時々気軽りに寄り集まって近況を語り合い友情を温める会合を開いてはと、嶋氏と小生発起人となり同級生諸氏に呼びかけたところ、全員賛同を得て第一回の会合を十二月七日忘年会を兼ね守山魚和にて開催することに決め解散する。

入学以来二年毎月二回土と炎に魅せられ無から有への創造の楽しみ、一般教養での諸先生の講話に耳をかたむけ、運動会、旅行と楽しい仲間、熱血の老青年達十五名、毎月顔を合わせていたせいか二ケ月が待ち遠しかった。

十二月七日当日それぞれ定刻に参集、発起人代表嶋氏

より、かたぐるしい会ではなくお互に年一、二回相集いて、その後の消息を語り合い横の連絡をとりつゝ何時までも友情を温めようではありませんかと挨拶、地域別（四班）に分け当番制とし日程会場等一任す。会員の多数意見により世話係（幹事役）は発起人二人に指名依頼され、これを快諾する。記念撮影をして賑やかなお前とおれの宴会大いに杯を交わし元気で又の再会を約し解散す。

その後、たとえ一頁のガリ版刷りでもよい、時々消息を知り合う会報（三ケ月毎に一回）をと思いつきその第一号を発行。

紙面の関係上一人百字以内簡単な文筆消息等の投稿を希望記念写真と共に会員へ郵送する。

今後お互に健康元気である限り、励まし合い素晴らしい青年老人の仲間が、老いることなく若々しきおつき合い友情が、この会報を通じて温められゝば我等発起人の望外とするところです。

生活科学科便り

三期生

彦根市　田中　花

一、県老大生として大きな誇りと感謝の気持一ぱいで来る日も来る日もゆるみなく学修にはげみ、級友との心からなる出逢いを喜び、楽しみつつ過ぎた二ケ年でした。なかでも体育祭に、トロフィを受賞した時の手のぬくもりは今も感ずるところです。又卒業旅行の思出・卒業式に於ける感激も終生忘れ得ぬものでございます。

今後は健康に留意し、級友との親睦・研修にはげみ、地域社会活動に、家庭の一員として年相応の努力を致しつゝ美しく老いていきたいものでございます。

二、卒業後の活動方針の取決め

昭和五十七年九月七日卒業旅行を機に、全員がホテルの一室に集まり、左の決定をしました。

1. 会の名称　三和会

2. 会　員　卒業生十六名

3. 目　的　全員の親睦研修及び老大発展に寄与する。

4. 役　員　当番幹事が全責任をもって役員任務を遂行

5. 記録帳を作製し、行事、会計、当日の出欠席者、感想、反省等を記入して次回幹事に渡す。

6. 三和会行事計画表（其の一）

三、卒業後の地域社会活動の実践記録

能登川町　森　キミ

私は町の老人クラブの会員の中では年令が若く、会の運営は先輩の方がして下さいますので、私は私なりの気の合った者同志でお世話役をして、毎月第二、四金曜日に町の老人福祉センターで親睦会を開いております。会の名称「喜楽会」、目的は健康で楽しい老後を送るため。

過ぎし日の苦しかったこと、楽しかった数々を心ゆくまで語り合い、お互いの智恵を出し合って、手を動かし、口を動かして心豊かに美しく老いてゆくよう努力しています。先生は無く会員相互が指導の立場にな

（其の一）

	年　月　日	場　　所	目　　的	当番幹事
1.	57. 9. 25	びわこホテル （県老大の送別会に合流）	・お別れパーテー	・和田　正子 ・藤野　千津 ・森田喜代子
2.	57. 11. 5	日吉神社を主とした湖西地方	・もみぢ狩り ・史跡見学	・北野　春子 ・川瀬　栄 ・松本ツヤ子 ・前田　シン
3.	58. 1. 18	京　都　南　座	・初春特別公演観劇	・田中　花 ・重盛　花子 ・白木　ヤス
4.	58. 4.	湖北（大崎） 湖西（藤村神社）	・桜　見 ・史跡研修	・松本まさ江 ・井口　千枝 ・勝木　春
5.	58. 6.	能登川町緻寿荘	・午前中＝ゲートボール練習 ・午後＝三和会の反省と計画其の二の取決め	・森　キミ ・大橋　雪 ・宮田　しづ
其の他	・小グループによる自主活動により相互親睦研修に努めるよう。 ・県老大の一般教養には進んで参加して行くよう。 ・個人的にも進んで地域研修会に参加して身心をどこまでも磨くべく努力して、美しく老いてゆきましょう。			

り、編物・手芸・ちぎり絵・其の他種々楽しくしております。

この会は町の有線放送にもとりあげてくださいました。書道学習会もお世話役として始めましたところ、最初五人から始めた会が現在では十五人となり、皆様「楽しい」と好評でこれ以上増えると教室へ入り切れないと、嬉しい悲鳴をあげています。

其の他町主催の講習会等へも卒先して出席しております。

老大「真夏の祭典」

三期生　大津市　増田　三郎

老大「真夏の祭典」とも言うべき第一回体育祭が華々しく開催されたのは、昭和五十七年八月三十一日であった。所も「びわこ国体」ゆかりの地、大津市皇子山総合陸上競技場で、懸念された天候も雲こそあれ、却ってガンガン照りでもなく、さわやかに微風さえあってまずまず申分のない体育日和と言える、幸先のよい幕開きであった。

何しろ今日の大会には、一、二年併せて百六十人からの平均年齢七十有余才という人々が出場するのである。気骨あふれる明治・大正人でも、肉体は若者のような訳には行かず、そのため今日の大会のため幾度か持った準備委員会でも、一番神経を使ったのはその事であった。競技内容も中高校生向きの内容を高齢者向にアレンジするのであるから、各委員共慎重にその問題は論議をつくした。

かくて当日、定刻十時、高らかに鳴り響くファンファーレと、元気一杯の君が代の声が、緑濃き長等の山に谺して、しずしずとメインポールに日章旗があがり、大会の幕は切って落とされた。学生代表斉内俊吉さんの力強い開会宣言「躍進滋賀県老人大学校生の声力強く『伸ばせ心を護れ身体を、見よ吾等明治大正人の力の結集、シルバー族体育祭』と声高らかに叫ぼうと言う結びの言葉でいよいよ熱戦の火蓋は切られた。

競技も次々進むうち、突然の本部からの場内放送で、われ等が学校長武村知事の来臨が告げられた。一同歓

迎のどよめきのうちに、実に親しみのこもった激励の訓示を頂き、斉しく感激したことであった。

順調な進行のうちに、お昼休みには、文芸学科謡曲クラブ員による、湖国ゆかりの謡曲「竹生島」の一節が場内放送を通じて流され一層の盛上りを見せた。

快プレー、珍プレー色々あり、その中でも「共同芸術家」。一人のモデルさんを囲んで五人の選手が次々と分業でそのモデルさんの顔を写生するというもの、看護婦姿の救護班の学生さんの美貌に、心なしか選手の手も小刻みにふるえるかに思われた。

最後の全員による「江洲音頭」の総踊りで、すべてのプログラムを終り、「滋賀県民の歌」の大合唱で真夏の祭典は滞りなく終った。

この企画が発表されてから、学生達で運営する第一回の大会という事で、何回かの委員会、説明会をもち、その成果が懸念されたが成功裡に終わる事が出来たのは、委員に選ばれた人も、競技に参加する人も全校一体となっての協力の賜と思う。又側面から温かい励ましと御指導御協力を頂いた大学事務局の方々にも深甚の感謝を捧げるものである。

どうぞ後に続く在学生の皆さんも、これをよき伝統として、尚一層の盛上りをもって継続されんことを切にお願いする次第である。

第三部　個人の動き

園芸学科

この頃の私

一期生
甲西町　熊谷　清一郎

県老大を卒業させてもらってから早や二年余りにもなる。楽しく学んだ友とも会う機会がだんだん少なくなってきた。それに園芸科では桐畑さんが亡くなり、また最近西堀さんが急逝されたと聞き寂しい限りである。

私もからだには余り自信がないので、人一倍健康管理には留意しているが、寄る年波には勝てず病院や歯医者とは縁が深くなってきた。

そんなことで生活の余猶時間がとられ盆栽の手入れが十分にできず悩んでいる。しかし、一年生のとき、森林センターで最初に実習した正月の寄せ植えは今だに健在で、今年も紅梅の蕾がほころびかけている。またシャクナゲの蕾も葉の間から隠見している。水をやりながらシャクナゲ特有のいま正に咲かんとする時の花容の美しさ、また開いた時の豊麗な姿を思い浮べて世話をしている。

昨年、シャクナゲ会の嶋岡先生に同行して富士宮市の農園に行く機会があり、先生からシャクナゲの新種苗を選んでもらい買ってきた。鉢数がふえて喜んでいるが、作り方がむづかしいので、枯らさないよう大事に育てて行きたい。

盆栽作りとともに、最近は孫の守りから手が離れたので、今はやりのゲートボールにも精を出している今日この頃である。

思い出のままに

一期生
八日市市　周防　安次

老大園芸科を卒業して早や二年有余になり私は今年喜寿を迎えました。

最近なんだか平凡な生活になりがちですが、園芸科で学んだことを思い浮べて盆栽の手入れに余念がない。ここ二年前に藤の接木をしようと嶋岡先生より白・紅・紫の三種類の接穂を送っていただいて接木をしたところ、見事に三本共に活着して、今年は花芽を見ることができ花の咲くのを楽しみにしている。

又先生より梅の早仕立法を教えられたので、ちょうど五年前に苗木屋から「林司仁梅」の苗木を買って畑に植えて毎年剪定して育てて来た。今年で五年目で漸く盆栽になって花を見ることができた。

私はこのように、在学中先生より懇切に教えていただいたことを忠実に実行しています。講義と実際を学んで盆栽を楽しんでいるのが今日です。盆栽は年数がかかるものと痛感しています。そうして年数をかけてより一層良い盆栽を育てたいものと念願しています。健康で今日一日を大切に楽しい老後を送りたいものです。失礼ながら近況を報告し同窓会の発展と会員皆様のご健勝をお祈りしています。

老いて弱る

一期生　彦根市　米谷　藤太郎

一九七八（昭五三）に滋老大校のお世話になる。翌年九月二十二日第一次の卒業式、要望叶えられ二年制となり翌五十五年九月二十二日、八幡文化会館で百万遍の僧正から、豊かな心を子孫に遺せとの記念講演に感銘を受けた卒業式。お別れの宴を、地元の前出さん等のご斡旋で一献を交し得たのを感謝し思い出の糧とする。

昭五十四年春近江兄弟社を、同秋には彦根中央病院高寺看護学院の講師を退き、その頃慢性の脳血栓に侵され左手足の不自由を感ずる。滋賀医大ではひどくなったらまた来なさいと言われる。昭五十六年八月は不整脈の症状が現われ、七十余日の入院を余儀なくされ、その間左手足の不自由は進行していたらしく、第一腰椎及び右脇腹の助骨々折を患う。幸い骨折は両方共全治したが、左手足の不自由と不気味な心臓の疾患が残り不安である。

幾つかの奉仕仕事は五十七年春より全部辞退し、一見閑そうに見えるが、身体が思うように動かないからそれでよいのである。

入院中もそうであったが、健康の有難さを沁々と感ずる今日この頃である。嘗って教わった菊の栽培やその他寄せ植えなど、もろもろの園芸科目も惨胆たる有様で吾ながら心淋しい気持である。

老人福祉の政治が前進することを念じ、嘗って繙いた芭蕉の本でも読み直し、自分なりに纒めてみたいと思っている。

わたしと園芸

一期生　東武蔵村山市　山本　長夫

去る四十三年郷里熊本の学校を退職して、東京に移り住んで間もなく近くに土地を借りて菜園を始めた。伸び放題の草地を妻と耕して畑地らしいものにしてゆく中に、一年足らずで百坪程に打ちひろげられ、そこに育てられた野菜も葉もの実もの根もの等合わせて二十種をこえた。自称農事試験場と呼んでその手入れに精魂をうちこんだ。家族で食べきれない時は近所に配って喜ばれた。

三年程たって東京都の老人大学の園芸科に入り二年間指導を受けた。実習が主で裨益する所大であった。

五十一年秋彦根に転居した。彦根での畑地は四十坪程だったが、好きな釣りと並行して精一杯野菜作りに専念した。

五十三年秋滋賀県老人大学が創設されたので早速園芸科に入学した。ここでは二十人の同級生と共に園芸の新しい知識を学びとる事ができた。

五十五年秋再び東京に転居する運びになり、卒業を目前にして退学したのはこの上もなく残念だった。でもその翌年三月の同窓会総会には東京から大津まで出むいて出席した。会が終って同志五人と会食し乍ら旧情を温め得た事はこの上もない喜びであった。

思えば還暦を過ぎて、二つの老人大学に在学し、好きな園芸の道にいそしむ事ができたのは、一生の思い出として今に感謝している。

ご健康を祈って

一期生　水口町　岡　うた

立春も過ぎ、春らしい陽ざしになって参りました。庭先の紅梅福寿草四国の黒松等見る度に、木枯の吹く日、又吹雪に銀世界と変わった希望が丘へ通学した頃が思い出されます。

卒業式を無事に迎えさせて戴いてからの私、思いもよらぬ病気にかゝりましてなかなか回復出来ずようやく杖をたよりの明け暮でございます。老大からの御案内を戴く度出席出来ないのが残念です。皆々様のお顔を思い浮べなつかしみ、又お出合い出来る日を楽しみに日々を送っております。

何と云っても健康が第一でございます。皆々様のご健康をお祈り申しあげます。

卒業後の活動

一期生　近江八幡市　前出　馬吉

米作農家に生まれ、山林に入って伐採したり植樹をした経験は有ったが、園芸特に盆栽を手がけた事は一度もなかった。

県老大の園芸科は卒業しましたが、さてやって行こうとしますと未知数が多すぎます。そこで我が地区公民館事業として、先ず菊作り、さつき教室を隔月に二ケ年実施して来ました。それぞれ部長を置いて和やかに楽しんでおります。

其の他専門的に嶋岡先生の石楠花の会に山本由二郎氏と入会して、三・四回出席しましたが、今は出ておりません。嶋岡先生の教室で頂いた二年生の石楠花実生一本は青葉を着ておりますが、二回の挿芽は全部枯れました。中々意のままになりません。園芸のむつかしさを知りました。

園芸を自分の物にするには、木それぞれの特徴、生態、土壌、肥料、適期剪定、配枝、施水等木に教わり、木をぎせいにし枯し、沢山の出会があって初めて盆栽が良く育つものと考えます。生命ある限り究めて行きたいと思っております。以上は私の近況です。

同窓の皆さん、年二回老大において公開講座の御通

知を頂きますが、出席が少ないので是非皆さん出席してお顔を見せて下さい。尚四季折々の会合の機会を作って話し合いを持って楽しい老後を作りたいと思います。

近況まで

一期生　長浜市　高木　三雄

四季おりおりの花木の変化を見、興いでて庭に立つ度に藤・石楠花の講義を共に学んだ皆さんの面影を思い浮かべる。

それが大変残念なことは、客年（?）西堀太二郎氏の急逝である。詳細は知りませんが、この誌上をお借りしてお知らせと共にご冥福をお祈りします。

瓦礫で植えたシンビジウムが何れも花芽を持ちました。初めて手にした藤も大きくなり、同様の石楠花が去年蕾をもち…これが蕾と知ったのが小指先大になってからで、葉二十五枚に蕾一ツと教えられた通り、三ツついたその一ツを摘みとり、毎日二ツの蕾の大きくなるのを、藤の芽吹きと共に楽しみに見ています。

長浜にもご存知の城が出来ます。嘗っての城は彦根に持ち去られて皆が幻滅を感じていましたが、今や文化都市の名実を結ぼうと、四月に湖北の名城として戦国の夢の再現として、美しい北湖の水にその姿を投ずることでしょう。

三月十日迄古盆桜の展示もあります。暖冬だったので、熟年者には有難いその日その日。今日立春。さすが県一の伊吹山も八合目から上は鹿の子まだらの雪ですが冬ごもりときめつけず

。でて見れば旅情そゝらる春ちかし

。春立つや何か明るい子のうた声

。一二三粒孫われに投げ鬼やらい

所感

一期生　木之本町　下川　正之進

私は老人大学校園芸科の第一期生です。湖北は県下の北端で例年ならば雪に埋れて二階の窓から出入りすることもよくあるが、本年の雪は私の生涯でこんなに少ないことは初めてです。

ところが盆栽類の冬囲いには弱ります。室内に長期間おいておくわけにもいかず、屋外で杭を組み合わせて中にいれ雨露にかゝるようにします。しかし狭い屋敷ではその場所もなく雪国の泣き処と思う。

今の世の中で憂うべきことは青少年に非行の多いことです。老人は長い人生経験に基づいて、ものゝ道理善悪については正しい判断力もある筈であるので、この貴重な経験を通じて青少年を指導してほしい。老人は胸張って世の中の流れを正常に戻すよう努力してほしいと思います。我々老人の出来ることは幼少な孫の躾であります。勇気と信念をもって絶対腹を立てないで指導してほしいものです。

私も昨年は喜寿を迎えお蔭で至極健康です。私の健康法は手足の指先をよく使い摩擦します。これは血行をよくして健康を守る秘決と思います。その外出来るだけ体を動かす努力します。運動すれば睡眠も確保出来るし、ストレスをいなすことも可能であります。心筋梗塞を起さないためによい生活習慣を身につけるよう心懸けることが大切と思います。

私は思う

一期生　大津市　下司　清

級友の皆さんお元気ですか、会報での再会を喜んでいます。

さて私の近況と言えば孫と遊ぶことが日課です。しかし子供には子供の世界があり、子供どうし戯れるのが本当の楽しみがあると思います。

最近こんな話を耳にした。八十六才の老父が胃がんで入院した。元来達者な老人で手術をすればまだまだ大丈夫だと云うことであるが、手術をしても世話をする人がないという、それは六十余りの子と六十に近い嫁がおり二人共健在であるが、その嫁が夫に「あんたの父だから、あんたが世話をしたらよい」といったそ

うである。子や孫もある年配の人でもこのような考えを持っている。先祖に感謝し、先祖の成仏を願う重大な役目を持つ子孫が、自己中心で欲にのみ走る悪世末法の現世、誠に醜い世相である。

紀元前既に釈尊は、父母に孝養せよと説法されている。その当時と現在は、文化の発展に格段の開きはあるが、道徳特に義理人情は全く逆行している。文化が社会破壊の元兇と云うが、道徳心の破壊が最も恐いのである。

人間は何のためにこの世に生を受けて来たか、真実の義を思い百万億阿憎祇劫の生死の罪を除却し、成功成仏しなければならないと思う。端座して実相を見きわめる事が大切であろう。

園芸科に学んで得たこと

三期生
野洲町　斉内　俊吉

昭和五十五年十月より五十七年九月まで二箇年間、園芸科で辻与左ェ門先生を講師として園芸の一般理論と実習を一通り指導を受けた。辻先生の微に入り細にわたっての懇切なご指導には感謝の外はなかった。しかしながら盆栽の育て方についてはいくらでも奥の奥があるので、僅二箇年だけでは劣等生の私には到底学習を完了することは出来なかった。

ところが盆栽造りの技術はすべてを習得することは出来なかったとしても、絵画、写真、講義では到底習得することのできない尊いものを私の心の中に植えつけられた。それは鉢の中の植物と対話することが可能になったことである。音声の無い植物の声を聞くことができるようになったことである。植木鉢の植物も私の声を聞いてくれるような気がする。

水不足を訴える植木鉢の泣き声、水量過剰で苦しんでいる植木の悶え、肥料不足で枯死寸前の泣き声、肥料多過で肥満に徒長して病床に喘ぐ姿。植木と人間との心と心の触れ合いを体得した。植物には確かに心がある。しかも正直である。植物の生活には嘘がない、反抗心もない、そして人間の愛情を素直に受けてくれる。

鉢植の菊は秋になると蕾を作り一日も早く開花したがっている。その訴えを受けとめて、人工で黒布などで日照時間を短縮してやると嬉しそうに誇らかに満開する。私は本年鉢植の梅を入浴させてやって嬉ばせることに成功した。十二月の末、寒い日を選んで三昼夜冷凍庫の中で極寒生活をさせて冬眠させて後、入浴させたら正月早々開花してくれた。入浴といっても植木鉢を湯の中に入れたのではない。家族の入浴が過んだ後、風呂の蓋を開放して湯殿のタイルの上に朝まで置いて、夜が明けるとすぐに太陽のあたる所へ出してやった。こんなことを一週間程継続することにより、梅の蕾は正月早々にほころんでくれたのである。私はこれを梅を騙して開花させたとは思っていない、蕾の出来た梅は一日も早く開花したがっているのである。その梅の訴えの声を聞いてやったのに過ぎない。目は口ほどにものを言いという諺があるが、私としては音なき声によって私に訴えたのだと聞こえたのである。

すべては思いやりの心である、思いやりの愛の心さえあれば世の中の殆んどの悩みは話し合いによって解決するのではなかろうか。非行少年の補導、嫁姑の問題、夫婦関係、同和対策、身障者との附合いなど両者の温かい思いやりがあれば、世の中は楽しいものになるのだろう。

二箇年間、園芸科に学んで盆栽造りの技術は習得せずとも盆栽と人間との心の触れ合いの尊さを体得した。

サーカスの虎やライオンと猛獣使いとの話し合い、春の野の花と密蜂との共存共栄のほほえましい共同生活、およそ地球上の生物は物言うものも、物言わぬものも思いやりの心の触れ合いで対話生活をしたい。園芸科に学んで何を得たか！ 私はこんな尊い人間愛を植木を見て楽しみながら体得することが出来た。

陶芸学科

人間の仕合わせの基は

一期生

志賀町　田中　誠三

一昨年八月末突然心臓を病み、脈搏は三十八、血圧は高く、暫く立っているさえ苦しくて堪えられない様な状態がつづき、もうこれでおしまいと覚悟を決め、何時死んでもよい様身の囲りの始末もし、生前特に懇意にしてもらった人々へ出してもらう死亡通知の宛先と住所の表を作ったりしました。

それでも十月末頃だったろうか、今年三月定年退職された県老人福祉課長西村さんから「一ぺん守山の成人病センターで診てもらったらどうか、あの病院には心臓病の良い先生が居られますで。」との勧告を受けて早速診察を請い、杖にすがって三ケ月程通院後、丁度昨年二月一日入院、退院まで四十日の間に脈搏を調整するペースメーカーと云う電池の入った機械を左胸に埋設してもらった。

お蔭で脈搏は毎分七十、血圧も平常になり、すっかり元の元気を取り戻すことが出来ました。そこで、これを機会に、七年間勤めて来た町と県の両老ク連の役を辞し、以来気楽に老後を過すことにしました。

現在は過去七年間習い続けて来た水墨画と、県老大で習い始めた陶芸、それに若い時から楽しんで来た園芸の三つの趣味三昧に浸って楽しんで居ります。

之は快復した健康の賜であり、健康こそ人間仕合わせの基だと病に苦しんではじめてつくづく悟りました。

陶一会の会員二十名の内昨年中に音居・村上の両氏が他界されて、少し淋しくなりましたが、春秋二回の一泊がけの集い(旅行)はみんな一番楽しみにしている行事であります。この春の集いは第九回目になります。

又会員の半数は生活科の第一期生の半数と一緒に月二日及至四日碧水荘で土捻りを仲良く続けています。

大分腕を上げた方もあり、秋の生き甲斐作品展には出

品が期待されます。

陶芸五星霜

一期生　大津市　小松　正

朝霧が一杯視界は0である。朝日が昇る、雲利久紫に染め上る。一九八三年元旦を迎えて私の陶芸も茲に五年目。古代への郷愁か、ひたすら作陶にはげむ老大陶芸科卒業の友の集いは、そのまゝに景勝の地水口碧水荘につながるのである。

月二日待ち兼ねての実習日は、自由課題とは云え漸く持ち味が出て来たのか抹茶碗一筋の友、壷に限ると云う友、香炉香合に凝る友、一品一品みなちがうのである。温情豊かな古谷忠六先生の御指導を仰いで作品は見違えるようになる。

実習は楽しいの一語につきる。余生にロマンはあるが、さて窯出しがハイライトである。

陶の温りを掌にそっと取り出す当番に注ぐ眼が真剣である。櫛風沐雨の荒々しさを表現する壷、老の一徹か豪快豪快艶肌浮出す鶴首の花瓶は女人の作か。芸術とは写すことではなく、創造することであるの実践者の集いであることを付記します。写しても大したことないの影の声あり。

無一物中無尽蔵
有友有土有老大

近況

一期生　大津市　平田　幸

1. 老化は脚腰から。
2. 人は血管と共に老いる。
3. うまく動くからだは若い。

今日、一月十三日市の熟年大学の開講日で。〃楽しい健康体操〃と題した講演と共に手や足を動かして〃わアッわアッ〃と声を出して行動して来たばかりですが。

去る五十三年九月県老人大学が開校された時、とにかく入学許可を得て、近江八幡まで通学したことを思

い出しています。楽しかった一年を済ませた時、誰言うとなく全員の強い願望で当局にお願い、二年制の許可を得て再び学ぶことの出来た喜こび、本当に充実した二年間でした。其の後当陶芸科クラスの方々は陶芸其のものを趣味として、未だに熱心に陶芸教室に通っておられますし、春秋二回は当番の方々のお骨折による良いクラス会を続けさせて頂いております。年を重ねる度に何となく寂しさの増す時に、いつまでもあたたかい心の通う方々との集いこそ、何にも替え難いものをしみじみ味わっております。

市の熟年大学も只今二期目、五十七年度の末期となりましたが、県老大卒業の翌五十六年の第一期から続いて学ばせて頂いております。

〃前をみて先をみて〃と知り乍ら現在を通して一寸過ぎた日の事を記してしまいました。

今年こそは

一期生
甲西町　辻井　美代

学年延長の願も成らず陶芸科を未熟のまゝ卒業という事になり、私等陶芸仲間は自由研究の形で、現在碧水荘陶芸教室の窯を求めて今も懸命に陶作の夢を追い続けています。

陶芸科に入学当時は、一回目の実習に生まれて始めて陶土に手を触れ、唯、教えていたゞくまゝに土を捻っていました。以来数えて五年目の春を迎え、そして作品の数々を前にして、感慨に耽けることしばし。この作品でも世界に唯一つと痩我慢を張ってはみるものの陶芸の深さ、むつかしさ、嗚呼!! 前途遼遠の感に溜息の漏れる思いでありますが、土に憑かれた様な今の私には矢張り湧き出る意欲を抑えきれず、夢ばかり追い続けている此頃です。

詩情豊かな風景を楽しませてくれる教室の周辺は、幾度も通い見馴れて来ただけに、私等にはなつかしい心の故郷であります。やがて土筆も可愛い芽を出すことでしょう。

今年こそは！と強く指先に力を入れてみるのです。そしてこの五年間、同じ思いに繋がれて来た懐かしい

陶友達と共に土を捻ることの幸せを思うのです。

新年に寄せて

東雲を染めて明けゆく初山河
たくましき嘴もて鳴けり初鴉
晩学と思へどこゝろ春を待つ

近況（年の始めに）

一期生　水口町　石川　まつ江

。初春の床に手作りの壷　映えおりて
新たな年の倖せをおもふ
。力作と自負して飾りし　器なれど
初春の床には面映ゆきかな

手作りの花器に松竹梅を生け、棚に之又手作りの香炉を飾り、一人悦に入っています。

来客に一服のお茶を、自作の茶碗で……

陶芸を学ぶ倖せを、つくづく噛みしめています。

それにも増して老大卒業生が引続き一緒に楽しく勉強出来る事、然も以前は往復四時間を要したのが、現在は僅か五・六分自転車で走ればよいのです。何の道も同じですが、私にとって、陶芸も到達する頂点がなく、いつ迄たっても広い裾野をぐるぐる廻るだけではあるが、楽しい学習作業の場であり、生きがいである事に感謝しています。

「もっと指先を細かく動かし、土を同じ厚さにせなアカン。女の人の手は、繊細に動く筈やがナァー」先生から常に注意されます。

それでも楽斉、六兵衛等の作品を見れば、私も同じ物を……と挑戦したくなるし……

大西先生にも。「六兵衛に挑戦しないで、自分に挑戦しなさい。」と言われたが……

大それた考えをおこさないで、今年は一番土台から更めて一段一段と確かな歩みを続けて行こう。と我が心に誓っている次第です。

近況便り

一期生　八日市市　加藤　悟

一、禁煙囲碁クラブの開設

県立八日市文化芸術会館前の小生寓宅で、二年前から禁煙囲碁道場を開設。目下会員は二三段級が七・八人。今年満百歳の湖東の男性第一位の川瀬直治郎翁を名誉会長に、川井角二七段九十三歳（県下棋士最長老先生）を顧問として、毎月一回御指導碁会を、平日は午后四・五時間を囲碁三昧に耽っている。喫煙所は戸外にある。一度是非碁来遊を‼

（付記）

去る一月十八日の延命荘主催の新春囲碁将棋大会から参会者の御協力を得て禁煙断行、別室に喫煙場を設けて。今後は他の趣味クラブにも呼びかけて、禁煙運動の拡大実施を念願している。

二、老・熟年者向きのミニ図書室を設けて希望者に開放。

三、県老人大学に願い

1. 専用独立校舎建設五ケ年計画の夢を実現してほしい。
2. 四年制大学の実現を早急に。
3. 公開講座制の拡充を。年数回に切望。

陶一会八回目の集い

永源寺町　糟井五一

昭和五十五年九月二十二日、滋賀県老人大学校の卒業式が挙行された日だ。あれから早や二ケ年余りも経ってしまった。その時に陶一会も発足したのだ。二十名の会員が今は二人も欠けてしまった。今は亡き村上忠雄・音居栄次郎の両氏の霊に、謹んで哀悼の意を表すると共に安らかに眠れかしとお祈りする次第である。

お互いに老の身、我が身の健康管理には十分に気を付け、何時までも同好の趣味に生きがいを持って、楽しく強く余生を送りたいものである。

さて陶一会の会合も地区別会員の輪番制で、計画実施しているが、昭和五十七年秋季は、湖東地区永源寺の当番で計画実施したので紹介したい。

時は十月二十九日・三十日の一泊二日。観楓期としては少し早かったが、最盛期の十一月に入ると観楓客

がどっとどっとても混雑し、落着いた会合も出来ないので少し早めた。幸い両日共に晴天で、気温も上り暖かい行楽日和に恵まれ好都合だった。
当日の出席者十四名、早朝各地を出発した会員は午前十時五十分近江鉄道八日市駅前に集合、バスで永源寺へ直行、宿坊の瑞石会館で精進料理の昼食に一同舌鼓を打ち少憩、その後大本山永源寺に参詣、庫裡の尊宿の間でお寺の安藤庶務部長の法話を一時間拝聴、終わって境内の伽藍を見学した。
本尊世継観世音菩薩をお祀りしている方丈、歴代住持の晋山式その他古礼の諸法要が厳修される法堂、開山寂室元光禅師をお祀りしている開山堂、静かに座して調身、調息、已事究明に専念する雲水の専門道場、その他数々の道宇を巡拝し最後に含空院で抹茶を戴いた。暖かい陽ざしを受けて、身も心もうっとりとする心境に我が身を忘れるおもい。
午後三時半下山、タクシーを借りて永源寺ダムの見学に出かけた。
永源寺ダムは、堤長三九二メートル・堤高七三・五メートル貯水量二二七四万立方メートルという巨大なもので、十余年の日月を費し完成したもので、蒲生・神崎・愛知の湖東平野の田用水として重要な役割を果している。湖周約八キロを車でドライブ快適な眺めであった。
宿舎もみじ荘に着いたのは午後四時二十分、早速入浴して汗を流し一日の疲れを休める。
夜は楽しい懇親会、酒を汲み交し四方山話に花を咲かせ友交を暖め、夜はぐっすり眠った。
翌朝は八時に朝食、食事が終わって識盧の滝を尋ね、後八日市バスで直行、太郎坊神社に参拝、参集殿で神官より神社の説明を聞き少憩、後八日市にて一同昼食をとり、再会を約して正午過ぎ散開楽しく家路に向った。

近　吟

一期生
米原町　藤居　趣門

初春や声なき指呼のはなれ鴨

変色の葉を雪折と気づきけり
離室まで二三歩春の雪なれば
紅梅の小枝を揺するほどの風
梅見頃言ひ添へて出す城の券
梅林に初蝶を見し虻も見し
花の雨うつろ顔して茶屋あるじ
春雷や話はづめる雨宿り
朝桜散る中少女ジョギングす
朝顔の双葉に花の色を秘め
ゴンドラの窓を過ぎゆく藤の花
新緑の垣根もお茶の関ケ原
老鶯の谷渡り聞く山路かな
刻々と夏至の日昇る温泉の窓
高野への霧の山道幾曲り
よべ螢とびゐし瀬々を朝散歩
宿浴衣着し気安さの螢狩
小十枚円座積みある茶室かな
暁の喜雨にめざめて窓開けず
継ぎありし蚊張に記憶の蘇へり
初霜にたおれてあるや道しるべ
元朝や法の灯冴え返り
初春や墨する匂好ましく
いつしかもあわれ稀なる老の春
待つでなし惜しむでもなし除夜の鐘
天地たゞ冴えが音なし除夜の鐘
初春や生きて今年も餅の味
初霜に色をそえたる万年青かな
今日からは雛の家なり孫の春

春夏秋冬

一期生　米原町　大橋　光

初参賀一老翁に椅子賜ふ
枯芝に落葉とてなき広さかな
大火鉢一つの寒さ本堂に
風花の散る野の春も遠からじ
道草の下校の子等に小雪舞ふ
雪晴のまさおき空を鳶舞へり

沙羅の花咲いてをりたる余呉の駅
ホースより虹を立たせて水打てる
母と娘の逢へば心の足りし盆
放牧の牛をちこちに風は秋
登山小屋見えきし足も軽やかに
芒穂の左右の頬を撫づ径を
目に見ゆるもの触るゝもの野路の秋
この月にこぼるる萩のありにけり
障子洗ふ時期には少し早けれど
葺縄の風に鳴りゐる城趾かな
秋晴の竹生を望笙峠より
十三夜よと知らされし旅今宵
遠く来し旅寝の窓の後の月
鹿寄せの勢子蒔く餌にも近寄らず
滝径の川原の歩板危なかし
滝径に拾へる石の皆まろし
ダムの水涸るころ紅葉染まる頃
みはるかす街灯りそめ夕紅葉
蝶の舞ふごと銀杏散る
過ぎゆくをただ待つのみの野分の夜
空馬車に紅葉時雨の容赦なく
札所馬車秋の時雨に早仕舞
美しき冬木となりし大銀杏

療養

陶一会

高月町　藤田　弥治郎

布施国手の勧めらるゝ病院に
精密検査受けに来にけり
診察の結果胃潰瘍と宣せられ
直ちに吾は入院したり
姑らくはこゝが吾家ぞどっしりと
三一一号室に腰おちつけぬ
煩わしき世俗逃れて療養に
専念せんと入院したり

新聞もラジオ、テレビも止めにして、ひたすら安静に専念するも吾が病気療さん為のボンコロン食事素直にいたゞきにけり

昨夕下剤今朝いちぢく灌腸と胃の腑腸まで空っぽにする、用便は病室でせよと言い、ポータブルトイレ貸してくれたり

吉と出るか凶と出づるか明日のカメラ検診気にかゝるなり

胃カメラを呑み、ねもごろに我が胃の腑観てもらいたり潰瘍と言う

胃カメラの捕えし我の胃袋は多孔性の潰瘍と云う

内臓の傷に絹帯巻けざれば気長に服薬続けねばならぬ

医師に身をまかせて体を横たえて胃カメラを呑む義歯を外して

点滴を受くる吾手の余りにも瘠せ細りたるが悲しくなりぬ吾が命救う玉なり今日も亦プロテアミンの点滴を受く

注射針うまく入らぬと訴える看護婦の手は冷たかりけり

静脈が細き我ゆえ注射針なかなかうまく入らざりけり鼻水と涙同時に出ると云う胃カメラと聞きしがさほどでもなし

隣家にも内証で吾は来たりしが如何に洩れしか見舞客多し

ねもごろに訪いくれて花活けて帰りし女のこゝろ嬉しく

何なすと術なき吾は徒然に天井の錆びた釘数え居り

何なして七十七年生きたりや一男二女を作りたるのみ

同室の患者夜中に苦しめど
どうしようも出来ぬ吾悲しも
病院に病みて籠れば高月の町長選は不在投票
宿業は避けて通れず病院の白きベットに身を横たえる
水曜日は寝具包布の取替日清しき床にもぐりて眠る
雪もよう空晴れけれど長浜は
晴れて琵琶湖の光れるが見ゆ
慕い来る我を先生と言う弟子の為にまだまだ生きねばならぬ

栄誉

老人の主張募集に応ぜんと夜を徹して原稿を書く
趣味に生き趣味に死に行く身の幸を思い主張の骨子となしぬ

はからずも一位当選と云う通知夢かとばかり又出して見る
陶一会に教えられる事多し陶芸と茶道の縁は深し

近詠

一期生　西浅井町　清水　義一

冠雪の霊峯写し初暦。
孫と嫁競へる如く初鏡。
老らくの秘める恋あり初鏡。
快晴をヒマワリの告ぐ初み空。
年玉の電気毛布やより温くし。
密柑刈り側に国民宿舎あり。
奥びわの島をいだける密柑山。
新聞を今日も読み果つ冬籠り。
炬達だき句作にふける爺一人。
テレビあり電話あり雪の冬籠り。
情歌（ゲートボールのこつ）
足腰揃えて重ねてにぎり　息止め入れます一ゲート。

私の今日此の頃

一期生
豊郷町　西村　浅次

「天は自ら助くる者を助く」これは私の心の至宝として私を支配してくれる凡てであると思い込んで、私の生活をリードしています。人に助けを求めるより私が人の喜ぶことに尽すことが出来たらそれに越した喜びはありません。

一寸身に余る厚かましい事を申し上げる様ですが、現在私は当字の老人会長を再度お引き受けして、この一年間上記の真意の具現に奔走しています。お蔭でこの一年間楽しい老人会に終始できましたことを会員と共に喜んでいます。

「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」親鸞が自らを愚禿親鸞とへり下って人を教化することによって親鸞が人に好かれ尊敬され、民衆を教化することが出来たと思います。

単なる理論とせず、これを卒直に受け入れて自分のものにしたいと絶えず自己反省し、皆様の為になる事を一途によく考え、よく勉強して、日夜努力を続けております。お蔭で会員の間にいさかいも起らず、和気藹々の中に一年間を経過する事が出来ました。極楽浄土にある様に思えてなりません。宗教は死んでからのものでなく現世においてこれだけの冥加が得られようとは……

新年度からは会長を後進の方に譲って蔭の力となって尽そうと考えています。陶一会の皆さんにも今年の賀状に認めた通りこれからは公の私でなく、私の私として自らの求める道を選んで全力を傾注して余生を楽しく生き長らえ度いと考えています。

過日も以前から当字のお祭のお旅所になっている土地が、一部今度土地改良で田圃になると言うので、そこにある溜池の周囲の柳を伐採して捨てているのに眼をつけ、これを組合長に尋ねると「始末に困っている」とのことで、それをうちまで運んでいます。私のうちはもと薪を焚ける様になっていなかったのを、昨年の暮から薪が焚ける様に竈を変えたので、今日までに五ケ月間で柴になるものは残して、丸太だけを運びました。そうしたら若嫁まで子供二人を連れて車で手伝

いに来てくれました。思いがけずに来てくれたのでびっくりするやら、嬉しいやら、

ところが以前から夜間料金を払って風呂の沸くようにしていますが、薪に切り替えても電気料金が月千円程しか安くならないと家内に笑われています。私もそれを聞いて、いさゝかがっかりしました。若嫁が「今日も行きましょうか」と云っても「まあよいわ」と断り、独りでせっせと運んでいます。私は捨てゝあるものを薪として生かせる事が出来たらそれでいゝのやと痩我慢かもしれませんが、笑って、せっせと割木こしらえを続けています。こうして気張っていると息子も日曜日にはチェンソーで薪を切ってくれたり、納屋の屋根が昨年の冬の雪で雪止のアングルが折れて、瓦を数枚割ったのを「お父さんあれ直すわ」と云って、屋根へ登ります。今まで業者に頼むはずになっていたのにと思い乍ら下から私が指示して手製で完全に修理出来て喜んでいます。

こうして家の中も楽しさ一杯の生活が出来て喜んでいる私の今日此頃です。皆様もこちらを通られたら、でなくて、わざとにでも足を運んでお出かけ下さい。お待ち申します。喜んでお迎えします。

福祉学科

心のひろば

一期生 福祉学科

今は病気にならないためにどうするかを考える時代になってきました。

元気なお便りの集りです。

よき時代妻の座も又嫁の座も毎日が喜劇幸せとも思い

老化防止に川柳を雅拙ですが御笑覧頂けば幸甚

彦根市　児島こと

中小企業技術振興のため技術アドバイザーとして県の委嘱で県内繊維部門の業界を巡回の傍ら自治会長、同和推進委員と忙しい毎日が生きがいでありまた生きる喜びです。　長浜市　勝木嗣治

新春を迎えいよいよ武村体制も安定し、草の根行政や休養県構想など明るい前進がある一方やはり福祉は暗いか。　五個荘町　田中由己

昨年は四畝の畑仕事と野球で明け暮れました。高校野球と社会人野球の世話、高齢者野球の監督兼選手等々……　近江八幡市　井狩忠之

亥の年を六つ重ねて屠蘇の味、民生児童委員、地域老人クラブ連合会長等を引受け元気に飛び廻っています。　大津市　吉川　豊

暖冬といっても、やはり寒い。寒さを吹っとばすとまではいかなくとも、負けないように若い頃からの「乾布まさつ」を続けています。　新旭町　小川孝雄

擬古人詩

異状寒気震鬢髪
客室赫々暖炉燃
進君尽更一杯酒
外方出弊館生色無　近江八幡市　中村弥平

本格的な高齢化社会に備えて、シルバー人材センター高齢者事業団を労働と福祉へ結びつけ強化すること。市町村社会福祉協議会の法制化に積極的な姿勢がほし

い……　　　　　　大津市　吉田貞雄

私は三年前に足を痛め治療を続けています。私共にとって健康こそ何よりの幸です。皆さんのご健勝を祈ります。

甲南町　西村義夫

卒業以来数年経ちましたが、その間老人会活動に専念してきました。暖くなればゲートボールも面白く、又釣り同好会の方々と語りながら糸を垂れるのも楽しみの一つです。

野洲町　橋本郡次

余暇をみて昔習い覚えた日本舞踊のおさらい、ゲートボールも亦楽しみで、老人クラブ活動にとお蔭で健康に充実した生活を続けています。

愛東町　中西清三郎

立春ともなれば老人も元気を取戻して、皆さんの若々しい姿にお目にかかるを楽しみにしております。今は地域において社会奉仕に自分なりに満ちたりた活動しております。

甲良町　大橋儀平

厳しい寒さも何んのその、老人クラブの仲間とゲートボールの練習に頑張って、毎日を楽しく過しております。

栗東町　仁科政夫

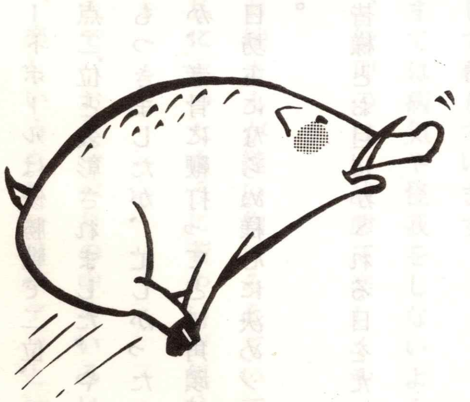
私は喜寿子守のねいやが米寿共に壮健、早く両親に別れ、ねいやの背のぬくもりが忘られぬ。いつまでも元気でいてほしいです。

喜寿米寿長寿　　湖東町　井関庄三郎

福祉と長寿の国、いまの日本は福祉国家への道を歩んでいるのです。県老大に福祉学科を復活発展を願っています。

二人の方は便りがなかったのでご健在を祈ります。

石部町　丸市喜好



生活科学科

近況

二期生　大津市　石島千代子

三寒四温と申しますが今年は暖い日がつゞきます、皆様お元気にお過しでしょうか。雨の日も雪の日も八幡へ通ったのもついこの間の様に思いますのに早一年余り、MさんSさんIさんの顔をなつかしく思い浮かべています。

残り少ない人生を、健康に留意し優雅により楽しく送りたいのが私のかねてからの念願でしたのに、突然の主人の病気入院で、何もかも大きく変わってきました。

至って引込思案な私が、主人の代理で会員の皆様と今日はゲートボールの試合に、明日は学区の町内のスポーツ大会にと、昨秋は「スポーツ」「スポーツ」に明け暮れました。ゲートボールは優勝戦で二位、スポーツ大会では総合得点二位と表彰されました。やればやれるものだと自信もつきましたが、忙しかったというか充実したというか、老骨に鞭打ってとに角頑張りました。そして今三日坊主にならぬ様心に決めジョキングに励んでいます。

早く暖かくなって皆様とお目にかゝれる日をたのしみにしています。

年代の差

二期生　栗東町　坂東タミエ

光陰矢の如しとか、私が老大を卒業して早くも一年六ケ月の歳月は流れたのである。二年間在学中は本当に楽しい毎日でした。

講師の先生や事務局の方々、そして学友の皆様にお会い出来る事の喜びは、何にもかえ難いものでした。学校で授業を受けている時、いろいろの煩わしい事は一切忘れて、只管に講義に聴き入って時間の経つのも

束の間でした。実地見修に行った事今は楽しかった思い出として心に残っています。

今は只管家事に専念する毎日です。二人の孫の成長をじっと見守って、どうか立派に成人してくれる事を念じております。

時代の変遷と共に人々の心の在り方も変わって来たと思う。戦後の苦しい生活を余儀なくされて来た私達にとっては、理解し難い点も多々あります。余りにも物に恵まれ過ぎて大切なものを忘れられているのではないでしょうか。この間お寺の住職から、聴かされた言葉をしみじみと噛み締めております。我々老人は頭の切り替えが大切である。年代が違えばそれだけに物の考え方も違って来る。一つの物を見ても、老人・壮年・青年とそれぞれ違っている。年代の差と言う事は甚しいものである。世の中はどんどん進んでゆく。社会に取り残されない様頭の切り替えが大切であると言った言葉をつくづくとかみしめる今日この頃である。

このごろ

二期生
守山市　石井　綾

毎日お寒いですが　皆様如何お過しでしょうか。さぞかしお忙がしくご活躍の事でしょう。

私もお蔭げ様で元気に、相変らず乞われるままにご近所の娘さんの婚礼支度のお手伝いをさせて頂いています。他所様の物はもうこれきりと完成の都度思うのですが、頼まれると「持って死んでも役に立たないもの」だから、達者な間にお役に立てさして頂こうと引き受けて毎日を緊張して暮しています。

これを仕立上げるまでは病気や怪我をしないよう健康にも一倍注意して、無理のない状態で楽しくやっています。

それに此の頃若いお嫁さんが縫い物にみえていて、私まで二十年も前の私に返ったように若やいだ気分にさせられています。

頭のいいかわいい人で、おしゃべりの中でいろいろ教えられる事も多く、楽しいうちに一日がアッという

間に過ぎてゆきます。
まだ残っている縫い物の予定を立てながら、いろいろの集りの出席や何やかや忙しく頭の中をかけめぐっています。
こうして一日が過ぎ、健康で平穏な日々を暮させていただく幸を心から感謝して、ゆっくり仏前におまいりしてお礼を申し上げるこの頃です。

同窓会の交友の場を広めよう

二期生

虎姫町　宮崎　程彦

佳き新春本年始めての滋賀県老人大学卒業生を以ってスタートした同窓会の会報二号が発刊される事になり、投稿をという連絡を受け余り音沙汰なかった卒業生の皆さん方と、活字によって交友を深める事の出来る様な計画誠に喜ばしい事と思い寄稿させて頂くこと心から感謝申しあげます。
卒業して一年有余立つ現在を考えて見る時、私の心の底にさまよう気持を皆様に伝えて見ようと思います。
そして同窓会の交友の場を広めようと強く叫ぶ者です。
在学中は又次回の学習の時は話せる会えると云う楽しさがあったが、卒業してからは其の気持が一変し、今回の様な役員方の計画が無ければ、ただ仲の良い少数の友人同志と年賀の交換、クラス会と云う狭い交友となり、自然友愛の気持がうすらんで来る様な気がします。
私も卒業して、郷土でひたすら老人クラブ活動に生がいを持って頑張る現在です。其の折感じる事は、近年老齢人口の増加に伴ない、老人クラブ活動をいかに進めて行くとよいか、其の研修の場としての老人大学設立の意義、同窓会の持つ使命は大きいと考えます。
老人福祉法が制定され二十年を経過しその成果も漸く定着化して来ましたので、同窓会の役員方も老人クラブ運動とよくマッチした良き計画を立案されることを希望します。

お金のはなし

一期生
栗東町　園田　満寿

五円玉が、相次ぐ物価高で、ここ数年来お金としての地位をなくしつつあります。切符・缶ジュース等の飲みもの、タバコなどの自動販売機は受けつけない。スーパーを除けば、一般のお店の値札に「五」は殆んどないといってよい。バス・電車の運賃にしても、一三〇円の場合、子供は半額の六五円でなく「一〇円未満は切り上げ」となり七〇円となり、五円玉は必要でなく物の数にいれてもらえないのである。

お願いごとをこめてお供えするおさい銭も、ご縁があることをもじってお参りするまえにわざわざ五円玉を用意する人もあったとかききましたが、近頃はそのような縁起をかつぐ人もなくなりました。

初詣でで、天満の天神さんに行ったとき、特設のおさい銭箱をのぞいて見たが、五円玉はほんのわずかでした。あるお宮さんの調べでもおさい銭の順序は1.十円玉、2.百円玉、3.五百円玉で「縁起かつぎ」の五円玉もその地位がうすくなってしまいました。その上流通量が少なくうちとしての地位がなくなり、お金の値必要がなくなったことによるものと考えられます。

コインマニアにとって、四八・四九両年にだけしか発行されなかった「穴なし」五円玉はノドから手が出るほどの貴重品らしく稀少価値があるらしいのです。

現在流通中の貨幣として額面以上の額で通用することはないと考えられますが、骨とう品同等として五円以上に取引きされているともいわれています。これは思い過しかもわかりません。

生活科学科一期生の皆さんへ

昨年末守山の湖畔で久し振りの同窓会を開催しましたが総勢十二名参加非常に盛会でした。先日欠席の方々も次回には全員揃って参加して下さい。

悲しいお知らせを一つ

神田隆子さんが移転先の茅ケ崎でなくなられました。皆さん健康にはくれぐれもご注意下さい。

地域便り

近江八幡市の比牟礼同窓会について

二期生　中嶋　實

一、結成の動機と会員数

滋賀県老人大学校の第一期卒業式が、昭和五十五年九月二十二日市の文化会館にて行なわれ、副校長の中西県厚生部長から、老大生は、個人の教養や技能を高めると共に、卒業後も地域社会の福祉の向上に積極的に活躍することが大切であると同時に、使命であると聞きました。

私たち老大生が、地域社会の福祉の向上に寄与し、貢献する方法は色々あると思いますが、わたくしは、縦の関係と同時に、一人一人の自主的な横の連携が必要であると考え、近江八幡市に、同窓会をつくるよう同期生の方々にはたらきかけご賛同を得ました。その後第一期卒と第三期の在学生各位に輪を広げ、同年十二月七日市老人クラブ憩の家にて総会を開催いたしました。

図らずも会員各位のご自覚により多数のご出席を賜わり、希望と歓喜のうちに満場一致をもって結成しました。

会員数は創設当時二十四名でありましたのが、市老人クラブの役員始め会員各位のご理解により、五十六年度は三十七名、五十七年度は五十二名となり大津市に次で第二位の会員数に増加したことは、同窓会の発展の為に喜ばしい事と思っています。

二、同窓会の活動と社会福祉

比牟礼同窓会の事業は、市老人クラブ活動と密接な関係を保ち、県老大の目的を基本として実施していますが、左記の様に要約的に申しあげます。

1. びわこ国体に、陳列出品された十月咲菊作りの指導と協力
2. 昭和五十六年度第二回総会　役員改選、会則補則修正、県老大移転防止を前市長に陳情
3. 昭和五十七年四月　比牟礼同窓会創刊号発行、百部印刷
4. 昭和五十七年六月　本願寺八幡別院境内を借用し、自治会の協力を得て、清掃整地土入れを行な

い、同窓会々員が卒先してゲートボールを実施す。

5. 比牟礼八幡宮の献菊会に参加協力し、好評をうける。

6. 昭和五十八年一月、近江八幡市老人クラブ西部連合会の新年総会に、会員中の陶芸科の有志の方が、八十五才以上の長寿者三十六人に、手作りの湯飲茶碗を、記念品として贈呈され好評を博しました。

尚来賓の吉井先生より比牟礼山麓に、工事中の滋賀厚生年金保養センターの展望についてお聞きしました。

以上の様な活動でありますが、本年の課題として、三月六日に第三回の総会を行ない、会報第二号の発行と事業について、協議したいと考えています。

滋賀県老人大学校比牟礼同窓会々員名簿と現況

（昭58・2・現在）

学区	科目	年度	住所	氏名	科目	年度	住所	氏名
八幡学区	生活	第一期	魚屋町上	喜多川りう 二－四五一〇	陶芸	第一期	出町七四－一	谷口光子 二－四六五七
	〃	〃	永原町上一〇	犬井春子 二－二七九五	園芸	第二期	西元町四七	中嶋　実 三－二四三五
	陶芸	第二期	北末町一四	○浜　春一 三－三六八三	生活	第二期	魚屋町元	三長きみ江 二－二二一三
	生活	〃	小幡町中	○宇野よしゑ 三－一八〇二	陶芸	第三期	北末町二	吉川保三郎 三－二六九一
	〃	第三期	土田町	大橋　雪 三－三六七九	園芸	第四期	玉屋町八	泉本みね 三－五六二六
	〃	第四期	北元町一八	北脇かずゑ 三－八四〇八	生活	〃	多賀町六四五	西川志津 二－二八六六
	園芸	第五期	小幡町中	小辰仙右衛門 三－四六七二	園芸	第五期	土田町二八－九	大西　玉 四－六一一七
	〃	〃	出町二－五七三	服部貞一 二－四四四八	陶芸	〃	北末町一－一	川瀬常治郎 三－六〇四八
	生活	〃	永原町上一七	山本婦美 二－四七二三	文芸	〃	北之庄町一〇八一	辻　宗治 二－四〇六〇
島学区	園芸	第八期	北津田町一〇六六	◎前出馬吉 二－二〇七四	園芸	第二期	島町六三二	田谷繁松 二－三〇七三
	〃	第四期	北津田町一〇〇二	○前出幸一郎 二－三六六三				

学区	科目	年度	住所	氏名	科目	年度	住所	氏名
岡山学区	福祉	第一期	加茂町一八九〇	◯中村弥平 四—四八四二	文芸	第二期	加茂町二八七六	岡田定平 四—四八四二
	生活	第二期	南津田町二六	片岡みゑ 三—〇五六七	〃	第三期	小舟木町五七	城野弥三 三—三七七〇
	陶芸	第四期	船木町一二五六	岡田英多良 三—六六〇七	生活	第五期	船木町一三四八	篠原陶 三—一八二七
	生活	第三期	船木町一二八四	西井すて 三—五八七二				
桐原学区	園芸	第一期	中小森町七九〇	◯山本由二郎 三—一八二三	文芸	第三期	赤尾町三八四	◎中嶋庄右衛門 三—一三六一(代)
	生活	第四期	八木町四〇六	荒井俊子 三—三七六六	園芸	第五期	篠原二丁目七—四	西川謙逸 七—〇五一七
	〃	第五期	中小森町四〇八	小林ふい 三—一二九六	文芸	〃	中小森町 三〇五—五	小林章九郎 三—一五〇九
北里	福祉	第一期	江頭町八二七	◯井狩忠之 六—八〇三六	園芸	第五期	野村町一四〇八	堀勘一 六—八二八一
馬淵	生活	〃	東川町二〇三	◯山本秋子 七—六四九〇	文芸	第四期	新巻町一〇三	◎苗村利平 七—〇八〇五
金田学区	文芸	第二期	浅小井町三八七	中島重治 三—六四六三	生活	第三期	西本郷町四八三	◯川瀬栄 七—一六七五
	園芸	第四期	鷹飼町一五四八	土田辰次郎 三—四八一三	園芸	第四期	上田町一〇五八—五二	近藤圭介 七—六〇六四

学区	科目	年度	住所	氏名
金田学区	園芸	第四期	西庄町一三五五	八田富美 二－六四三四
	〃	第五期	杉森町二九一－一六	村下信重 七－二五九四
	陶芸	〃	鷹飼町八五八－三二	栗野英一 七－三〇七四
武佐学区	陶芸	第一期	西生来町	○中村亀市 七－〇六三二
	園芸	第四期	長光寺町一〇六	安田泰三 七－〇六四五

科目	年度	住所	氏名
陶芸	第四期	長田町四二四	小西一郎 七－〇六九〇
園芸	第五期	西本郷町四七六	永福外次郎 七－〇九〇三
陶芸	第二期	西宿町七〇	○木川文雄 七－〇六六六
文芸	第四期	武佐町六五五	岡田政次郎 七－〇八七三

会員数 五十一名　男 三十三名　女 十八名

異動 堀上町四一－五七　神田隆子（昭五七・十二死去）

学科別会員

一、園芸学科――十七名　二、陶芸学科――九名
三、生活学科――十五名　四、文芸学科（福祉学科）――十名
計　五十一名

比牟礼同窓会の現況

（昭58. 2）

一、名称　滋賀県老人大学校比牟礼同窓会

二、会員　近江八幡市在住の県老大の卒業生及び在学生

三、目的　会員の相互親睦、地域社会の福祉向上に対する協力

四、事業　総会、研究会、会報発行等

五、会費　年額壱千円　特別会費若干円

六、役員
会長　中嶋　実
副会長　小西一郎、犬井春子
庶務　城野弥三
会計　田谷繁松
監事　木川文雄
（幹事○印、委員◎印）

滋賀県老人大学校同窓会々則

第一条（名　称）
本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。
第二条（会　員）
本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。
第三条（事務所）
本会の事務所は、滋賀県老人大学校本部内におく。
第四条（目　的）
本会は、会員の親睦・研修および老大の発展に寄与することを目的とする。
第五条（事　業）
本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。
一、総　会
二、研修会
三、老大後援活動
四、会報の発行（年一回）
五、その他の事業
第六条（役員および役員の選出・任期）
本会に次の役員を置く。
会　長　一名
副会長　一名
理　事　一〇名
幹　事　二名（会員・事務局から各一名）
監　事　二名
役員の選出方法
会長および副会長は、理事会によって選出する。
理事は、各学科から選出する。
幹事は、会長が委嘱する。
監事は、各学科が交替で二名を選出する。
役員の任期
役員の任期は二年とする。
第七条（経費および会計年度）
本会の経費は、会費をもってこれにあてる。
会費
会費は、会員一人当り年額一〇〇〇円とする。
会計年度
本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって翌年の三月三十一日をもって終わる。

付　則
本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。
（改正）昭和五十七年十月一日から施行する。

【会員名簿】 ◎学科委員

第一期生 昭和五十五年九月卒

園芸学科

甲・甲西町針 ◎熊谷清一郎
八・上平木町一五一二 周防安次
彦・竹鼻町 米谷藤太郎
東京・武蔵村山市 山本長夫
彦・千尋町 浅野実誠
守・浮気町一九五－五 西村秀吉
甲・水口町城内二－一七 岡うた
神・能登川町栗見出在家二一九 井口新作
東・びわ町南浜 中川長三
近八・北津田町一〇六六 前出馬吉
近八・中小森七九〇 山本由二郎
草・山寺町六八〇 宮地太一
長・分木町一－一八 高木三雄
伊・木之本町木之本 下川正之進
大・西の庄一五－五七－三〇三 加藤義二郎
大・際川二丁目四－二九 下司清
野・野洲町野洲三〇九－六六 永井新一

死亡 桐畑留次郎・西堀大二郎

陶芸学科

犬・豊郷町八町九六五 西村浅次
伊・西浅井町八田部三一三 清水義一
神・永源寺町高野七六二 糟井五一
八・金屋二丁目一－四 加藤悟
蒲・蒲生町蒲生堂五八一 池田七郎
伊・高月町字唐川 藤田弥治郎
守・守山町六四九－一 今井満
甲・水口町梅ケ丘一－二七 石川まつ江
近八・出町二丁目七四－一 谷口光子
近八・西生来町一一二三 中村亀市
草・西大路町一三－八六 垣貫貞
大・逢坂二丁目三－一八 平田幸

坂・米原町米原二三三　大橋　光
坂・米原町筑摩　藤居趣門
滋・志賀町南船路五七　◎田中誠三
甲・甲西町菩提寺雨山三三九－二四　辻井美代
大・野郷原二丁目三一－二　小松　正
蒲・竜王町山之上三三二〇　山上久一

死亡
村上忠雄・音居栄次郎

生活科学科

愛・秦荘町蚊野一六八一　北村ちよ
高・高島町上永田九〇〇　白崎喜久
蒲・蒲生町川合八八七　松吉敏江
彦・安清町七－九　北川三枝子
守・金森町城の下一四〇－一一八　伊藤満さを
蒲・安土町下豊浦五〇－四　井田きぬ
近八・東川町二〇三　山本秋子
近八・魚屋町上四　喜多川りう
草・大路一丁目一八－二四　三浦　郁
大・大谷町二三－二二　廣田きみ

大・横木一丁目二－六　菅原とみ
近八・永原町上一〇　犬井春子
栗・栗東町出庭三二七－一　◎園田満寿
大・山科区日の岡鴨土町三九－一　津山ツネ
大・鳥居川町一〇二三　河合静枝
長・加田東町二五〇四　西堀三鶴
大・横木一丁目一四－三　松井浪子
大・中央一丁目七－七　加藤幾尾

死亡
神田隆子

福祉学科

犬・甲良町長寺　大橋儀平
高・新旭町熊野本一一八七－一二　小川孝雄
神・五個荘町中出町　田中由己
愛・湖東町北菩提寺六九二　井関庄三郎
甲・石部町石部四六七三　◎丸市喜好
野・野洲町高木　橋本郡次
甲・甲南町新治　西村義夫
愛・愛東町平尾五六一　中西清三郎

高・安曇川町常盤木一二四〇	駒井喜代次
野・中主町野田	河瀬義夫
近八・加茂町一八九〇	中村弥平
近八・江頭町八二七	井狩忠之
長・一宮町二－二五	勝木嗣治
栗・栗東町十里二二四－一	仁科政夫
大・尾花川一八－一二	吉田貞雄
大・南郷二丁目三五－一三	吉川豊
坂・米原町米原五七四	増田正夫
東・虎姫町大寺	三家久七
彦・芹橋二丁目九－二三	児島こと
草・上笠町九九六	渡辺進

第二期生

昭和五十六年九月卒

園芸学科

甲・甲南町下馬杉五三七	◎奥岨靖一
高・高島町高島	井口章夫
近八・近江八幡市島町六三二	田谷繁松
大・大津市別保三丁目六－二〇	石島愛知
近八・近江八幡市西元町四七	◎中嶋實
野・野洲町三上四〇六－一	内堀善二
甲・甲南町池田九〇一	谷俊治
滋・志賀町木戸七五	三浦広道
愛・湖東町僧坊	沢田重雄
野・中主町八夫	高田七百寿
神・能登川町乙女浜	森野真一
伊・西浅井町大浦	藤井長生
栗・栗東町霊仙寺一五三	松本恵三
彦・彦根市清崎西町	田中勇蔵
坂・米原町朝妻筑摩	北村勘七
甲・石部町石部四六一六	青木正三
草・草津市野村町六一二	山本城三郎
長・長浜市本庄町二五六	清水正一
大・大津市松本二丁目三－一三	田中源五郎

陶芸学科

草・矢倉一丁目一五－六	廣川貞喜
蒲・蒲生町蒲生堂	安井柾三

草・東矢倉一丁目一五ー六　堀井勇一
野・野洲町野洲一一九　永田義一
伊・余呉町小谷　田中覚治
近八・西宿町七〇　木川文雄
滋・志賀町中浜八〇　今西重一
野・中主町野田　木村義之
近八・北末町一四　浜　春一
草・西渋川一丁目四ー一七　◎中村義朗
大・真野大野町　小林太三郎
守・今宿町三〇二ー五　矢谷留吉
栗・栗東町手原六九〇　里内ちづ
甲・水口町虫生野九九六　小嶋小石
大・大平一丁目一三ー四三　山中文江子

生活科学科

野・中主町西河原六五三　川橋　亨
東・虎姫町月ケ瀬二二八ー一　宮崎程彦
大・大石東町四八八ー三　◎菴原忠男
大・大平一丁目一五ー四〇　財前喜世子

近八・魚屋町元　三長きみ江
甲・甲西町菩提寺三二九ー六二　清水イチ
近八・小幡町中一七　宇野よしゑ
甲・甲南町葛木一一四三　服部峰子
大・別保三丁目六ー二〇　石島千代子
甲・水口町城東五ー七　雀部つる
彦・岡町　川村繁乃
滋・志賀町北浜一五五　杉本ハマ
守・洲本町開発一四一一　石井　綾
大・大平二丁目一四ー九　千田トシ
栗・栗東町六地蔵四六〇ー三八　坂東タミエ
長・大宮町五ー六　西堀シナ江
近八・南津田町二六　片岡みゑ
高・高島町永田三九四　三矢博子

文芸学科

坂・近江町新庄　松居脩一郎
彦・栄町一丁目九ー三　近藤辰次郎
東・びわ町曽根一三〇四　中川長三

八・爪生津町一一八九　嶋沢保太郎
犬・豊郷町雨降野二〇四　元持孫太郎
近八・浅小井町三八七　中島重治
神・能登川町躰光寺　河端正夫
彦・日夏町寺村二五八二　寺村彦兵衛
彦・新町三七　山本喜一郎
大・堅田衣川町八九　中村平三郎
蒲・竜王町林三九五　川部伊三郎
近八・加茂町二八七六　岡田定平
高・安曇川町田中二四四一　岸田七次
愛・愛東町百済寺丙二三九　山本清左ヱ門
蒲・安土町常楽寺三二三　木野正三郎
大・石山寺二丁目二〇ー一六　◎竹中久作
大・大平二丁目一二ー三六　北村郁子
大・南郷二丁目三五ー一三　吉川トミヱ

第三期生　昭和五十七年九月卒

園芸学科

野・野洲町三宅一八三八　◎斉内俊吉
長・朝日町二四ー一三　保多徳太郎
神・能登川町乙女浜　森野重太郎
大・田上森町五三四　北川喜太郎
八・清水一丁目八ー二　川瀬清治郎
高・安曇川町田中二八六五　霜降利兵衛
大・大平一丁目二六ー三〇　奥田治郎吉
犬・豊郷町雨降野三二二　西山弥一郎
大・長等三丁目二ー四一　辻増三
滋・志賀町南小松　沢村銀一郎
甲・甲西町針六二四　西岡孝吉
東・湖北町延勝寺一四〇六　中沢利明
甲・石部町石部三〇六二ー二　谷口三郎
野・中主町八夫一四九一　中川保二
高・今津町深清水二〇〇二　松本良一
蒲・安土町下豊浦五三八五ー三七　岡田新治郎
東・びわ町香花寺四八八　村田他目雄
彦・甘呂町八六八　辻幸夫
蒲・日野町中山二四二六　瀬川治雄
高・マキノ町知内一二七八　前川俊夫

陶芸学科

草・上笠町六三六ー六　平井寅清
大・国分二丁目一九ー一九　福島悟朗
甲・甲南町深川市場八三　福井信一
草・南山田町四二〇ー四　岸本政太郎
甲・水口町城内六ー九　木村主税
甲・甲南町塩野一二八　清水芳雄
草・矢倉一丁目六ー一五　飯田正己
神・五個荘町平阪二一〇　佐生正二
大・馬場一丁目三ー三二　◎中村標雄
坂・近江町寺倉三〇九　音居三郎
彦・後三条町一二五ー五　川村順茂
彦・西今町八五〇ー六九　堀江昇治郎
草・野村町四五四ー一　嶋木鉄男
近八・北末町二　吉川保三郎
野・野洲町永原九六六　米田巳吉

生活科学科

長・高田町六ー一四　勝木春

近八・西本郷町四八三　川瀬栄
栗・栗東町大橋三四六　北野春子
彦・千尋町四四　◎田中花
大・神領三丁目七ー八　前田シン
神・能登川町猪子二七三　宮田しづ
近八・土田町八三七ー二　大橋雪
高・高島町高島六〇六ー一　井口千枝
彦・安清町一三ー八　白水ヤス
彦・安清町一三ー五　重盛花子
高・今津町深清水二〇〇二　松本まさ江
大・京町三丁目三ー一六　藤野千津
大・国分二丁目一〇ー一四　和田正子
草・南笠町五三六ー九七　松本ツヤコ
大・国分二丁目一四ー五　森田喜代子
神・能登川町栄町一　森キミ

文芸学科

草・野村町八三一ー一九　伊藤博祐
大・山上町二ー三二　森野茂吉

大・浜大津三丁目三ー四　◎桑野　大
愛・秦荘町月加田九二三　北川弥一郎
近八・小船木町五七　城野弥三
坂・米原町朝妻筑摩一四八〇　古川武男
長・相撲町五三〇　藤居勝一
野・野洲町北桜七一八　青木治之丞
甲・甲南町野田三九六ー三　松本弥一
伊・西浅井町塩津浜八六四　平塚重雄
蒲・竜王町西横関二七七　大橋昇治郎
長・常喜新町二八一　森　量海
近八・赤尾町三八四　中島庄右衛門
彦・平田町六七ー六　野中　正
大・長等一丁目三ー一七　増田三郎
八・金屋二丁目一ー一三　坂田定五郎
神・永源寺町高木一九〇　山田省平
大・国分二丁目二ー二四　伊達初子
大・大平二丁目二六ー五　西尾公子
草・草津町一七四五ー一三　加藤さだ
草・渋川一丁目一ー二七　中村千代子

郡市別県老大同窓生数

郡市	1期	2期	3期	人員	郡市	1期	2期	3期	人員
大津市	12	11	14	37	神崎郡	3	2	5	10
草津市	3	4	8	15	愛知郡	3	2	1	6
彦根市	4	5	7	16	犬上郡	2	1	1	4
長浜市	3	2	4	9	坂田郡	3	2	2	7
近江八幡市	9	9	5	23	東浅井郡	2	2	2	6
八日市	2	1	2	5	伊香郡	3	2	1	6
守山市	3	2	0	5	高島郡	4	3	5	12
滋賀郡	1	3	1	5	県外	2	1	0	3
栗太郡	2	3	1	6					
野洲町	3	5	4	12					
甲賀郡	6	7	6	19					
蒲生郡	4	3	3	10	合計	74	70	72	216

〔昭和五十七年度役員〕

会長　大橋儀平

副会長　田中誠三

理事　熊谷清一郎
中嶋　実
斉内俊吉
西村浅次
中村義朗
中村標雄
園田満寿
菴原忠男
田中　花
大橋儀平
丸市喜好
川部伊三郎
竹中久作
桑野　大

監事　周防安次
菅原とみ

幹事　田中誠三
国松佐三郎

老大便り

1. 校舎

昭和五十六年度から、滋賀県厚生会館を主校舎にして運営。

2. 在籍数（S58・3現）

学科	一年（四期）	二年（五期）
園芸	32	25
陶芸	17	17
生活科学	15	16
文芸	28	16
計	92	74
総計	166	

（備）第五期生の定数を増加し、95名入学許可す。

3. 学習状況

(1) 学校行事をなるべく多くして、学年合同自主活動・学年別自主活動・学科別自主活動を系統づけ、全校協力・学年協力・学科協力の実践力の発揮と集団活動の自主推進にとりくんでいる。

(2) 学科を通した社会参加の開拓に重点をかけている。そのため現地学習・現地訪問学習等では、学科単位、あるいは必要学科が合同する形で、目的に応じた集団を構成したうえ、現地との事前連絡会をもって、学習と社会参加活動の一体化に尽力している。

あとがき

第二号発行に際して、大学校長武村正義知事殿から、メッセージを賜わり、同窓会の活動に、激励をいただき、また、ご期待をおかけいただいたことは、一入感謝を覚えるものであります。

会員が年々増加する私たちの会が、まず結束を強める・なお活動を追究することによって、本会の使命達成に向かい活気旺溢していくことを願うものです。

多くの方から原稿をいただきましたこと、ありがとうございました。内容を配慮して、役員会で審議した編集計画の一部変更をいたしました。ご了解ください。

編集へのご協力に感謝いたします。（編集部）

第二号
昭和五十八年三月二十四日
発行　滋賀県老人大学校同窓会
印刷　吉田印刷所

佐渡　2泊　3日

◎ 旅行費用　　**39,700円**
◎ 旅行出発日　58年6月中旬
◎ 募集人員　　120名
◎ 旅行内容　　島内 2泊　　全行程全食事付
見学地（朱鷺の郷・佐渡博物館・尖閣湾・佐渡金山・大佐渡スカイライン他）
※ 往復特急雷鳥号利用

上記企画のお問合せ 及 申込みは下記へ

近畿日本ツーリスト（株）
大津営業所　TEL. 0775-22-1206

＝ 名鉄観光 ＝ 創立20周年記念「特別企画」

北海道 十勝八十八ケ所をめぐる旅

＝ **4泊5日** ＝

★ 期日　**58年7月1日～16日（毎日出発）**
★ 会費　**￥ 88,000円**

（コース）

① 滋賀県各地 ＝ 大阪――――札幌 ＝ 弘円寺 ＝ 滝不動 ＝ 大自然霊光院 ＝ 高野寺 ＝ 十勝川(泊)
② 十勝川 ＝ 幕別大師堂 ＝ 軍岡大師堂 ＝ 弘真寺 ＝ 足寄 ＝ 阿寒(泊)（湖遊覧）
③ 阿寒 ＝ 知床 ＝ 川湯温泉(泊)
④ 川湯 ＝ 摩周湖 ＝ 美幌峠 ＝ 層雲峡(泊)
⑤ 層雲峡 ＝ 旭川 ＝ 札幌 ――― 大阪 ＝ 滋賀県各地

名鉄観光
075－351－0222

担当　斉藤・福村・伊藤

全身的な正常化作用をもち
現代病にすぐれた効果……

末病を改善する紅蔘

正官庄　　大韓民国専売庁製造品

高 麗 紅 蔘 粉 カ プ セ ル

0.3g　　200 Caps
全国統一価格　**10,000円**

輸入元　日韓高麗人蔘株式会社
発売元　友豊商事株式会社
指定販売所　**丸 市 薬 局**　外商

滋賀県甲賀郡石部町　TEL 0748－77－2050

今は病気にならないためには
どうするかを考える時代……

株式 会社

相互ツーリスト

本社　大津市坂本穴太町一丁目5－12
TEL　大津（0775）78－0822
〒520－01

推薦：滋賀県老人クラブ連合会

第5回
滋賀県老人の翼

ヨーロッパ周遊記念旅行

• 旅行期間／6月22日（水）～7月3日（日）　• 費用／385,000円
• 内容：全食付 • 添乗員同行 • 一流ホテル
★ 姉妹都市訪問……スイス・インターラーケン（大津市）
　ドイツ・アウグスブルグ　（長浜市）

取扱旅行社：**海外交流サービス株式会社**

運輸大臣登録一般392号　日本旅行業協会正会員
〒530 大阪市北区梅田1丁目1番1200号　大阪駅前第3ビル12F